

地域共生推進協議会【第2回】

令和5年8月4日(金)

18時半～20時

佐々町多世代包括支援センター 会議室

議事録

委員出席者

佐々町民生委員児童委員協議会	会長	吉永 浩樹
町内会長連絡協議会	会長	ミズタ ヒデタカ 水田 秀豪
北松浦医師会	かわむら内 科院長	川村 純生
北松歯科医師会	かわむら歯 科 医院理事長	迎 文彦
(社)佐々川福祉会		古川 薫
相談支援事業所さわかぜ支援センター		竹下 智美
長崎県社会福祉士会 権利擁護センターぱあと なあ長崎	社会福祉士	山野 清治
佐々町商工会	会長	森山 政幸
スクールカウンセラー		近藤 由香里
佐々町スポーツ推進員		マツオ ヤスヒロ 松尾 恭宏
佐々町教育委員会教育委員		ナカムラ タカヒロ 中村 尚広
株式会社 愛佳	代表取締役	シモガマ トヨヒロ 下釜 豊広
介護予防ボランティア 元気カフェぷらっと	代表	福田 修三
ぷくぷくクラブ	代表	岩本 ます子
フリースペースなずな	代表	柳原 佳子
佐々町食生活改善推進連絡協議会	会長	小林 貞代
カブトガニを守る会	会長	ヨコオ ヒロノリ 横尾 博 宣
佐々町地域福祉計画策定委員会委員長		吉居 秀樹

財津係長

資料の確認。欠席が2名（大瀬委員、小林弁護士）。進行を会長にお願いします。

中村会長

△第2回 地域共生推進協議会を開会します。△一つ目の案件は6月に開催された2つの会の意見集約をさせていただきました。△幕さんにツリーを作っていただいた。

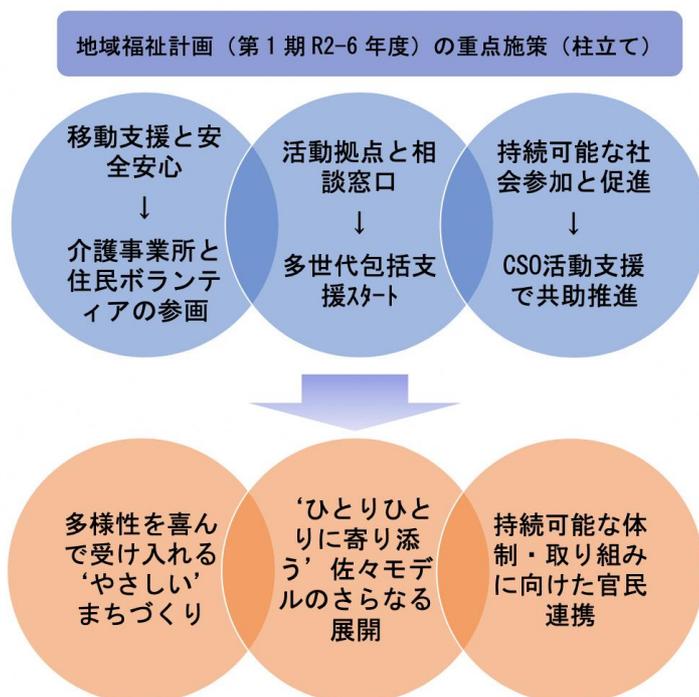
皆さんの意見がここにも貼られていると思います。△勉強させていただいた。骨子と概要があって。骨子は、トーナメント表みたいな感じ。佐々町民の 1 万 4000 人の幸せが一番大きな目標としてある。ここをやれば、綺麗に明確にわかる。これが骨子。△概要は骨子じゃない。全体的に把握して、全ての、ここにおられる 20 人の人がいろんなことをする中で、絡み合って、まさに「ごちゃまぜ」。「ごちゃまぜ」になって、一つの目標に向かっていく。佐々町の 1 万 4000 人の幸せが真ん中にある、大きな丸がいくつかあって、絡んでいる。骨子は、まさに縦割り。縦割りは、ぱっと見てわかりやすいのはわかりやすいと思う。それでいいのかと。△今日、幕さんに 1 人 1 人のご意見をまとめていただいた。それが子供に関わるものなのか、親に関わるものか、高齢者、障害者、心障害児とか、障害者に関わるものなのかを綺麗にまとめていただいて、これを読まれた中で、各人の意見もこの中にあると、感じられると思う。△おぼろげな意見を言っていたところもあったので、さらに今日は意見を出していただきたい。△さざまる市場は、これが一つのモデルケースのような気がしました。△こういうのを多世代の方でやろうとされ、もう 2 回目だそうですけど、されているのはまさに私達がここで関わりやすくなる。△そんな中で、役場の皆さんも縦割りでない事例を感じた。△アイスクリームを寄付された時に、役場の方が垣根を超えて取りにいかれた。



幕さん

△付箋を貼り替えて、トーナメント表的に張り替えた。健康診断的な話、その食事の話とかですね、お母さんとその子供の食に関してまとめた。△この作業をやって、よくわかったのは、**話が絡んでいるのがすごく多かった。だから作りづらかった。**△この表の 1～20 番まで番号になっています。付箋をもとに作っていますけれども、これ、皆さんの意見、どこか 1 カ所しか貼ってない人は 1 人もいない。全部、バラケた。

△これは3つの丸が重なっている状況。トーナメント表で健康診断のところ歯科検診のところ、運動のところ、自治会のところ、それぞれが単独でやっているわけではないことがわかった。△この3つの大きな丸が、その**重なるところは重要であり且つ、いろいろな手が伝える、参加ができるところ。**△皆さん方も重なるところを前提にお話をされていた。△図の上の3つは、前回の計画のときの丸。下の3つが今回の計画の丸にしてみてもはどうでしょうかという案です。



△確かに3つに全部かぶっていましたが、薄いところと厚いところがあります。

△薄いところ、例えばこの多様性を喜んで受け入れる。1 回の分科会の中では、その障害者、ノーマライゼーションとかどうするかは、全体としては相対的に少なかった。

△アンケートの自由記入について、町の方にご了解を得たので、お出しします。△読むのは大変かもしれませんが、はまって読まれると思う。△その自由回答入り、本編、最終の報告を皆様方、見ていただきたいと思います。

△不安だ、不安だっていうのは結構書いてあって、順風満帆じゃない。何か将来に関する不安が渦巻いている。だから重要なところ。

△ボランティアのところは、丸をつけさせると、やりたい人が多い。でも、この分科会の時にも、リップサービスだろうとの意見があった。自由回答では「やれるわけない」「余裕ないに決まっている」との話が出ています。本音が、ストレートに出ている。△難しい何課題として、複数の方がネックだと言われているのが、丸6つの下にある2つ。

- ✓ 覚悟を持ち専門研修を経た寄り添い・お節介とこれを可能にする個人情報の保護・取り扱いに関する議論の必要
- ✓ 公助の予算主義・公平透明性遵守は前提に機動的な住民活動を支え促進する持続可能な仕組み（制度・組織）の検討

△1つめの「覚悟をもち・・・」かなりハードルが高いところ。事例としても、うまくいっているのを私は知らない。△2つめの公助の予算主義・・・この事例はあります。ただ、1万人の規模ではないです。大学の研究では、市民活動を支援する中間団体が成立するのは人口5万人以上だという話がある。△事例として、佐賀県の事例を持っています。佐賀県庁はCSO推進機構というのがあります。これは、それぞれにNPOの中間支援団体というのはあった。市民活動を応援するための団体を、中間支援団体。それが佐賀の中では16ありました。それがバラバラに県の中にあつたやつをまとめたのが、このCSO推進機構。△県の補助金をもらって、この推進機構を作られています。それぞれの中間支援をやっていた市民団体が集まってできている。△基本的には、県からの補助金でやっています。県の補助金は税金から出ているけど、ちょっと特殊なところがあります。△公益財団、要するに寄付を集めて、財団が形成されている。その財団の運用の資金を貸し付ける形になっている。もう一つがふるさと納税。ふるさと納税の寄付金を、このCSO推進機構の事業費に充てる。ボリュームとしては5万人どころか、県全体。

△もう一つがコミュニティバンク。どういう銀行かという、銀行という名前がついているけど、基本的にはNPO。NPOでその寄付金を市民活動に低利で貸し付ける。△名古屋のコミュニティバンクですけど、その寄付したものは、その無利子ですから、戻ってこない。ここのコミュニティバンクで、そのイベントは本当大丈夫なのかとか、もっと手伝える必要があるのか。そうするとmomoレンジャーが助ける。事業のハンズオン・要するに一緒に伴走して支援する役割を若い人が担う。△この人たちのお給金のために、事業計画も必要で。それに応じて利率も、上下する。△佐々にはこちらの方があって、いると思って持ってきた。事業計画を出して融資してもらってみたい仕組みができる。△繰り返しますと、この3つが独立してはいない。3つが絡むところに重要な事業だと

か、皆さんがたくさん関与できるものがありそうだ。その重要な事業をぜひ役場の方と一緒に考えていきたい。△この障害者に関して、どうするのかはノーマライゼーションもそうですし、その障害者に対して、1人1人に寄り添うとか、持続可能な仕組みとか、重なる部分でアイデアをいただくと、ありがたい。



中村会長

△柱はこの三つ、「多様性を喜んで受け入れる‘やさしい’まちづくり」、「‘ひとりひとりに寄り添う’ 佐々モデルのさらなる展開」「持続可能な体制・取り組みに向けた官民連携」。△毎回ですね、こうやってお集まりいただいて、今事務局の方から、計画がどう進んでいくっていうのが、スケジュールが出ておりますけど、これはもちろんこのままのスケジュールでいくかどうかはまだわからなくて。ギリギリまで3月までかかるということもあり得るそうです。

△第3回の協議会が令和5年9月になっていく。9月である程度審議を進めていくかもしれません。ただ今日のここで話す、この3つの柱の部分だけではなくて、実際に多世代包括支援センターとしてやっていかないといけないということがあると思います。その辺のところも今後の計画に取り入れていかないといけないのかなと思う。

吉永委員

△フリースペース「なずな」を全会一致立ち上げまして、代表が私の隣にいる柳原さんがやっている。△明日も「つなぐ BANK」からもお見えになるから、十分なお話を聞きた

いなど思いながら、今日そういったこともあるのかなと思っただらもうしょっぱなから。こういった話が出てきたからですね素晴らしい。いろいろまた新しい質問が出て、皆さんのご意見も聞きたい。

中村会長

△フリースペースなずなの不登校であったお子さんが行かれたときに、確かに出席扱いになった。△出席扱いになったら、学校には行けないけど、「なずな」には行けて、そこで学習をしたい、させたいとなってくると思う。

近藤委員

△学校で不登校の子供さん達を紹介して、親の会の方とも連絡を取り合って、行きたい。△学習支援に関して何か今、1人1台のタブレットを持っているので、人が行って勉強を教えるのがまず難しいのであれば、ネットを活用して、子供たちが勉強するのを見守っていただくとか、あと勉強には入れないけれども、何かトラックとかボードゲームとかそういうことを通して、人との関わりを学んでいくような、何かそういう場になるといいのかなというふうには思っています。

森山委員

△何か難しくなっているなどの印象。誰がどこから何をやっていくのかが全然わからない。この3つには異論はないけれども、これは、別のところとも関わるので、この図の書き方では、正しくはない。今日のテーマの3つの目標のところだけだとなかなか議論が進んでいかない。それぞれの団体が20団体あって、20団体が主にどんなことをやっているかを書き出してもらおう。△この団体と組み合わせたらこういうことできる。僕にとっては、今は今日の議論が見えてない。それぞれの団体から自分たちのやっていることをまず出してもらって、組み立て直して、それを実現させるためにどういう人たちが集まってやっていったらいいか、具体的な事業企画が出てくると思った。

幕さん

△これ行政の計画を作るというのが元々の目的なので、その行政の既存の事業は、やりたいけど協力がなくておそらくできないだろうと事業がある。それを行政の方にも出してもらおう、その上で議論しないと駄目だけど。

吉居委員

△本当に高度なことをされている。佐々町は他の自治体では、どこも実現できてない子育て支援と介護のところを繋げた組織体を作ってしまった。△統一の形が模索されて、私達は招集されている。△自分たちだけでいいものはできないと思う時、客観的に自分たちを見つめられているので、こういう会が開かれた。計画を作るところから一緒に作って、出来上がったなら一緒に実施していいのがこの会議で目指すと言われたのが頭に残っている。△それそのこと自体が、優れているわけです。△大変ですよ。大変だけど、ここでいいものができると、完全なものを作る必要ない。時代が変化していけば、もっといいものをやろうというより発展できるプランになるようなものがもしこの

会の中でできてくれば、それはそれでまたそこを基準にしてまた進む。行政の方でも、多世代も含めて、自分たちでやりたいことを一緒に出して、ここの中で、一緒に議論して作り上げていく段階にも来ている。

△支えるための組織の案もいろんなものが出てきますよというのが、新しい思考・考え方が必要で、そういう新しいものを組み込みながら、佐々モデルを作っていく必要がある。

水田委員

難しい話になっているけども。今現在、健康増進という謳い文句で、各町内会、包括、民生委員、みどり会、そういう組織が合わさって、健康 100 歳体操をまず始めました。それに付随して、独居老人があれば声かけて。社協から面白いゲーム、頭の体操とか、そういうゲームを持ってきてもらってやるとか、だんだん絡み合って今現在やっていることはある。これをもっとはっきりした大きいものにしていく意味じゃないかなと理解していた。

森山委員

△その団体の主な目的でどういうことを自分たちは今やっているのがわかればね、ここでと一緒にやったらいい。こういう目標だったらこっちの目標に3つぐらいの段階で一緒にやるというのがわかると思う。△この予定表通りには僕のか頭の中ではないかな。もう 1 回それを書いた文書を出してきて、そこで議論を始めて、事業に対する議論というのを始めていくのでは。

幕さん

△何かやりたいことを行政に表明すると、障壁が明らかになるみたいな話がある。だから、やりたいことを具体的にしていって、この場所でそれは難しいと言われるのか、難しいけど、引き取ってやりますと、行政の方に言うただくかはこの場だからできること。

迎委員

△歯科医師会としてできる事業とか、協力できることを考えた方がいいですよ。歯の状況からネグレクトがわかるというのは、基本的なことは各歯科医院の先生にも周知されている。△私 1 人でできないのであれば歯科医師会の方の理事会とかに、問いかけてですね、どういった協力ができるかというのを聞かないといけません。歯の健康相談は毎年行っている。歯科医師会もだんだん高齢化が進んできて、実際、実働人数が徐々に減ってきている状況。佐々の先生は、高齢化は進んでいますけど、まだ多い方。お元気なうちに必要性を訴えて。理事会とかにも相談して。

山野委員

どういう形で関わられたらいいのかというのが。組織としての支援が必要ということが、最初から思っていたので、私個人というよりは組織を 1 回通して依頼してもらった。社会福祉士会としての権利擁護による虐待の難しいケースもたくさん出ている。

△成年後見人制度で、高齢者、認知症の方、精神障害の方、知的障害の方、ご家族の関わりが難しい方、専門職でないと関われないケースが増えてきている。△今後も多分、増えてくる。そういう中で支援できることがあると思う。数も増えてきているので、限界や課題も出てきている。

下釜委員

△訪問看護の事業所ってというのは何力所がある、もちろん在宅支援が基本ですので、いろんな方の支援を仕事としてやっている。△何かその団体としてとなると、逆に難しい。個人的には理学療法士なので、障害児さんから高齢者まで関わっている。体の不自由な方もいらっしゃいますし、知的精神の方もいらっしゃいます。△包括の皆さんと関わっていると、佐々町を愛して、何とかしたい、もっと良くしたい気持ちが伝わってくる。△何かしらお手伝いを、できることは何でもしようという感覚ではあります。何をすればいいのかっていうのも、全く見えていない状況です。

川村委員

△病院診療所ですので皆様の健康管理、認知の問題、介護認定の問題。健康診断いろんな問題がある。例えば、佐々町内は健康診査を受けられてその結果を結局個人が自分の成績表にしている一方通行です。佐々町全体でどういう病気の方がいらっしゃるって、多くてこういう対応しないといけないっていうところまで多分まだ踏み込んでない。△大学病院の総合診療科の方は、佐々町内のデータは多分持っていらっしゃる。医療機関、佐々町に公表していただいて、何歳の方はこういう疾患が多いとか、何年後にはこういう病気になっている方が多いですよ皆さんに知っていただくということを、これからやっていただきたい。△私自身が認知症サポート医の資格を持っているが、それを十分に生かしている状況ではない。例えば皆様が集まる場所で、医療機関として何ができるのかっていうことを進めていかないといけない。

福田委員

△介護認定の介護支援じゃなくて、介護予防が中心。食事の方も小林代表に引き受けてもらっている。私達は、素人のボランティアの集まりで、介護予防の活動、買い物支援、それから移動支援ですとか、生活支援ですとか、いろんな形でやっている。専門以外のところで、他の関係者の方、団体と重なる部分がある。そこをサポートしていただけるといい。点と点のところを1年に何回かでいいので、一つの線で結んで、何か開いてもらえるといい。団体として幅が広がるかなと思っています。△例えば極端に言うのですね、今のこの福祉センターの中で、いろんな講師をやってくれる。行政の中の講師さんが多い。輪を広げて、いろんな専門の方々が、高齢者の方に役に立つ講師さんが来ていただくといい。そのあたりをサポートして欲しい。

吉永委員

△一番軒下の活動をしていると自負しています。小学生から高齢者まで、訪問したり、守ったり。夏休み前ですけれども、認知症の高齢者が目の前を歩いてびっくりした。

家に行ったらやっぱり家の人も知らなくて、対応して発見できて、一大事にならず、よかつた。地域地域で地味ながらも軒先まで入り込んだ活動ができています。包括や社協、いろいろに繋いで、やっております。△毎月1回、32町の総代会の民生委員の定例会をやっております。活動も徹底しているなど。



柳原委員

△「多様性を喜んで受け入れる・・・」等々、これ「なずな」の場合みんな当てはまる。子供たちの出席を認めてもらえるようになったというお話がありましたけれども、月曜と木曜だけやっているの。本当は月曜から金曜までやりたい。でも場所もないし、お金もないし、人材もないし。とにかく幼稚園から高齢者までうちに来られる。△保育園に行っている子供から中学生、高校生まで、昨日も宿題を勉強している子も数人いました。勉強をみるスタッフも充実したいと思います。△徘徊の話が出ましたけれども、そういう徘徊をされる家族が相談に見えることもある。とにかく、ぐちゃぐちゃです。そういう中で本当にお金も欲しいし、場所も欲しいし、人も欲しいっていう感じ。佐々出身の2人の青年(かつて不登校)が活躍するようになった。30代の青年が、やっと日の目を見たというのが、「ひきこもりだって不登校だって恥ずかしいことは何もない」と、ずっと長く関わってきた中で、私も自信ができました。

竹下委員

△相談支援をしております。今受け持っているのは2歳児から80過ぎの高齢者まで幅広い。関わっているのは、幼稚園、学校、弁護士さん、地域の方。状況によっては「なずな」にもお世話になる。△相談支援という仕事自体があまりなじみのない言葉で、わかりづらい職種です。私自身が佐々町の住まいではないので、なかなか地域の方の顔を覚えるのに時間がかかって、今も名簿を見ながら確認しているところです。△佐々町は介護保険や子育ての強みが結構あると思う。障害はやっと立ち上がってきたのかなと感じていて、行政の職員さんとお話しをしても、「知らないですとか、そういう仕組みがあるんですね」と言われる。逆にそれが強みになって知らないからできるところもたくさんあると思っている。周りの市町にどうしても頼りながらしないといけないところはあっても、その町独自の取り組みもできていると感じている。

近藤委員

△私は佐々町内の小中学校の3校にスクールカウンセラーとして配置をされました。△普段は子供さんへのカウンセリング、保護者の方への相談を行う。△子供さんの心の内面に入る仕事なので、まちづくりとか連携とかそういう視点に弱い。△この会議のトピックの一つに学校との連携が入っているので、協力できたらいい。不登校とか発達障害の子供さんに関わる人が多いので「なずな」や、カブトガニの活動とか、そうした団体との連携を進めたい。家庭の教育力や食事の課題とか、既にある取り組みの情報をいただいて、学校に情報提供をするなどもできる。

岩本委員

△「ぷくぷく」は、ほっと一息できる実家のような広場になりたいと思っている。今、お母さんたちは、保育料が無償化したということで、1歳にみたないくらいで、みんな仕事に出られる。それが悲しい。△家でみているお母さんたちをどうしても救いたいと思う。広場にいらっしゃいねと言って、健康センターのブックスタートでPRをさせていただいて、広場に遊びに来てくれるお母さんたちが増えているので、年間100に増やしたいという目標は持っています。△いろいろ行事を通して、子供の心を育てたい、でも子供の心の前に、お母さんたちが行事を知らない。七夕を知らないママもいた。ここからだと思った。△今2人目3人目が増えてきている。妊娠しましたというママたちの声を聞くのが一番楽しみ。本当に誰でも受け入れてあげたい。夏場になって卒園した子供たちも、妹や弟たちを連れてくる。親子で自分の名札を見ている姿がとっても微笑ましい。

小林委員

△私達の団体は行政との繋がりがものすごく強い。昭和57年からです。佐々町の健康づくりの応援など。結果的に食に繋がることをずっとしてきた。△自主的にしたのは梅干し。30年35年ぐらいつけていた。皿山にイノシシも出るし、倒木になりまして、もうやめようかと思っている。梅干しは東京にまで行って好評。個人的につけるのは、1キロ2キロとかっていうのは教えているけど、400キロぐらいつけていた時もあったけれど、できなくなった。△行政との繋がりで、健康センターで行われる男性料理教室やサ

マースクールっていうのが社協であって協力している。△「ぶらっと」の福田さんの方から言われましたけど、7年ぐらいやっております。水曜日と金曜日のお昼の時、これは高齢者の方ですけどね。これも40名分作っている。△行政との関わりですから続けなくてはと思う。でも後継者問題がある。私のもう仲間たちは、後期高齢者を越えた方が多い。会員はたくさんいますけど。そういう問題が私にとっては一番問題です。

森山委員

△商工会は366、7の会員の事業所が会員でいらっしゃいます。△そういった中で主な事業としてはですね、会員さんの経営指導、経営指導、国から出ている助成金の申請のお手伝い。それと金融関係で、借入れのお手伝いとかそういうことが主。△第一回目の時に、長崎県の健康アプリがあるから、これを商工会で何かしてくれといった話があった。健康アプリがあるので、登録してもらえませんか、少しずつ広がってきている。そういうことでも連携ができています。その他にも協力できる場所が多々あるのではと思います。△商工会として、いろんな事業に関わって協力していきたいと思えます。

横尾委員

△教育委員会の事業委託を受けての土曜学習プログラムをやっています。うちとしてできることって今何があるのかなと考えた。「なずな」さんとか、不登校、障害者の方とか、やっている活動に参加させるためにはどうしたらいいか、考えていきたい。△歯医者さんとは、鰻を取って食べて、食べた後の歯のケアの仕方とか。お医者さんの方に、鰻食ったらどういふことがあるとか。いろいろ連携できる。

水田委員

△町内会長をやって7年、その中で、去年から自治連合会の会長と町内会会長と、衛生保健衛生協議会の会長、この3つを承っている。保険衛生の方で、町を綺麗にする、ゴミ収集所を整理するとか、そういうことを仕事としている。町有地の草刈りとか、やる方向で建設課と話しをして、各町内会に募集して、草刈隊みたいなのを作って、やろうじゃないかと。油は町から支給してもらおう。今のところ35町内会のうち3町内会しかやってない。これをもっと広げたい。△それと、自治連合会の会長になったことで社協の理事がついてきた。だんだん関係も広がりがでてきた。

松尾副会長

△スポーツ推進委員は30年近くなる。最初、町から委託されて、スポーツ推進をやっている。小学校の教員もやっているので、子供たちのために何かしたいのがずっとあった。まずスポーツ塾を、土曜日、月に1回始めました。今10年ぐらいになります。それとキャンプ。キャンプも小学校の子ども、今年は30名40名近く集まった。△自分がやりたいことをスポーツ推進の方に協力してもらっていた。△1つ、自分がやりたいのは、特別支援学級の担任をしているので、10年近く発達の子供たちとずっと関わってきた。発達の子供たちの居場所が、何か必要。あった方がいいなと思っています。スポーツ

推進の方だけでは難しいので、ここで何か皆さんと協力しながらスタッフもボランティアもいろいろ考えながら、居場所作りができたらと思う。△自分の中では、土曜日に幼児さんを集めて始めた。幼児さんだけでは難しいので、発達の子供たちを集めるとなったら、私 1 人では難しいところもある。専門的な方も必要になってくる。その子たちを集めて月に何回かできれば、勉強じゃないですよ。体を動かす。遊びの中から順番を守るとか、基本的なことを子供たちが感じてくれて、それが学校につながればいい。ここで何か皆さんと協力して、そういうことができたらと自分では思っています。

古川副会長

△主な仕事は、在宅介護から介護施設に入所される方の介護になる。国もどうかしようということで、施設での看取り、終末期の看取り、大体 2 施設あるけど、年間 30 名近くの方を施設で看取っている状況。病院で亡くなられるのと違って、国からすると費用が 3 分の 1、4 分の 1 以下で収まるらしい。△医療とか、他の事業所との連携がもっとスムーズにいかないかと思えます。往診していただくのは施設に対する経費もかかってくるので、どう改善していくかですね、課題は見えてきております。

△地域の中ではですね消防団とか PTA、商工会、おそらく僕ぐらいの年齢の人は大体もう兼務しているよう感じはある。そこを広く人材を登用していく必要がある。そういったところが課題で、今後そこら辺も組み込めていけないかと思っております。

△仕事としては介護業界の人材不足。家族関係の希薄化、子供の頃からの福祉教育。親を育てることも重要。△さざまる市場が明日ありますけど、親も含めて参加できる行事であれば、子供さんもつられてきたりする。そういったところをヒントにできる。

中村会長

△事務局側として、今言われたようなことを一つの表にさせていただいて次回はずいぶんこの名札を全部の席に置いていただいて、顔が見えるようにしていただく。△次回はこれを今日の意見をもとに少し議論をしたいと思えます。△僕が思ったのは不登校というのがあって、不登校の人もちゃんと救ってもらえるという。そういうことが佐々町の一つの柱になってきそうな気がします。△高齢者の方にとっても、歯医者さんも、ドクター、弁護士の方もおられるのでそういったことでいろんな意見を出していただく会に次回はしていきたいなと思えます。事務局にお返しします。

財津係長

△今回の計画が、高齢者介護、障害、健康増進、自殺など、いろんな個別計画を含んだところで、皆様に「ごちゃ混ぜ」でお話をさせていただいている。個別計画を含んでいるという意味で、3つの柱が各個別計画にどのように、結びつくのかを次回お示しできればと考えている。

江田参事 さざまる市場の紹介と案内。

